

令和5年度 市長記者会見の概要

令和5年12月22日(金)

- < 開催時間 > 15:00~15:23
- < 会場 > 庁議室(市役所本館3階)
- < 会見案件 > 東村市長退任にあたって
- < 出席者 > 市長

< 発表内容 >

【福井市長】

16年間本当に皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

先ほど、退任式を終え、これから、市役所を後にするのですが、この雪がとても心配です。

災害対策本部を立てなければならない状況ではないようですので、少し安心していただければと思います。

どうも長い間ありがとうございました。

< 質疑応答 >

【広報課長】

それではただ今説明がありました案件につきまして質疑応答を行います。

【記者】

先ほど幹部職員の方々を前に、退任式でご挨拶を述べられました。何か思い起こすようなことがあれば、その時のお気持ちも含めて教えてください。

【福井市長】

気持ちを込め(話し)たが、(その時の気持ちは)特に覚えていません。

【記者】

退任式の挨拶は、公務員としてどうあるべきかという内容も含めてのメッセージだったと思いますが、改めて職員の方々に今後福井市のためにしていただきたいことや伝えたい思いがあればお願いします。

【福井市長】

市民の方の意見を聞くことが大事です。しかし、それ以前に普段から公務員同士、職員同士のコミュニケーションを大事にすることで、福井市の方向性や問題点をある程度整理できると思います。

その上で市民の方の、意見を聞き、市民と市の間で考えが違ったときに、どのように意見をすり合わせて解決していく

かを考えてもらうことが、大切だと思っています。

【記者】

東村市長にとってこの16年間はどんな16年でしたか。

【福井市長】

同じ課題でもその時の時代によって対応が変わってくると思います。どの時代も課題をいち早く見つけ、その時の時代背景を踏まえて、対応策をつくり出していくことが、我々の仕事なんだろうと思います。そういった意味では難しい部分もあるなと思います。

【記者】

16年間で特に印象深かったお仕事を教えてください。

【福井市長】

時代によって課題は変化するが、いずれも大事な課題であるため、その課題にどう向き合っていくかが重要だと思っています。

ただやはり、近年災害が非常に増えています。雪の場合だと、大雪の頻度が、最近では約3年刻みになっています。また、大雪だけでなく水害も増えていますし、熱中症等の暑さ対策も必要になっています。これからの時代を担う子どもたちや若い人たちは、災害が頻発する中、生活していかなければならないのかと考えると非常に大変だなと思います。ですので、環境問題も含めてしっかりと対応を取り、生活のしやすい社会に戻ってくれることを願っています。

【記者】

平成30年の大雪は福井市にとっても非常に大きな出来事だったと思うのですが振り返っていかがですか。

【福井市長】

雪は溶けてしまえば、何も残らない、いわゆる傷跡も残らないので、災害という認識が非常に薄いところがあります。福井市も国といろいろ話をした結果、災害に準じたような形で交付金や補助金をつけていただくことも、少しずつ増えており、ご検討いただいていると思います。

福井市としてはその災害の状況を踏まえて、交付金や補助金をつけてもらうように働きかけを強めていかなければならないと考えています。

【記者】

来年3月に開業する北陸新幹線について、これまでを16年間で振り返って、またこれからどのような新しい福井市になって欲しいか教えてください。

【福井市長】

新幹線の開業は予定よりも1年遅れました。わたしが最後まで携われなかったということも含めて、そのことが非常に残念だったなと思っています。ただ、これだけの大きいプロジェクトを動かしていると、どうしても計画通りには進まないこともあると理解しています。新幹線の開業は市民の求めていることと合致するので、常にしっかりと計画をチェックしながら、できるだけ早く、完成するように進めていく必要があると思っています。

【記者】

新幹線開業が間近に迫り、どんな福井市になっていくことを期待していますか。

【福井市長】

それは新市長が言っているように、大交流時代ということで、交流のあり方などをしっかりと見つめて進んでいく必要があると思っています。

【記者】

最後に、西行さんがこの後引き継ぐということで、改めて西行さんにひとことメッセージがあればお願いします。

【福井市長】

市民の方等々の意見を聞いて、そして思いっきりやっていただければと思います。

【記者】

就任した頃に、思い描いていたことはどのくらい達成できたとお考えですか。

【福井市長】

福井市のまちづくりを、一番の課題だと捉えながら就任しました。今、A街区、B街区、南通りの計画が出てきていますが、まだ3月までにA街区の姿が具体的に現れる状況なので、これからも大分力を入れていく必要があると思っています。

【記者】

たくさんの実績を残されていると思いますが、やり残したことはありますか。

【福井市長】

やり残したことはたくさんあると思うが、それをすべてできる状況だったかと考えると、おそらく無理だったと思います。状況を見ながら進められたと思っています。

【記者】

先ほど、市民の方の意見を聞くことがとても大事だとおっしゃいましたが、東村市長にとって、福井市民の皆様というのはどんな存在でしたか。

【福井市長】

市民ファーストの社会を福井市は追い求めているので、市民の方々の意見をよく聞いて、できること、できないことありますが、できないことについては、こういう理由があってできないということを、丁寧にお話できるように運営はしてきたつもりです。

【記者】

最後に明日からはどんな生活を送りたいとお考えですか。

【福井市長】

雪が早く降り止んで欲しいなと思っています。

【記者】

これまでの16年間、どういう思いで市政に向き合ってきたのか、信念をお聞かせください。

【福井市長】

まずは課題をしっかりと押さえて、その課題をどう効率的に効果的に解決に導いていけるかという道筋を立てて、それに基づいて動くということが、必要だと思っています。ただ近年は、物価上昇など、想定を超えた動きがあるので、その辺りに思いを入れるのは難しかったと思います。

【記者】

改めて16年間を振り返ってみて、一言で言うと。

【福井市長】

課題に対してしっかりと向き合うということが、やはり行政に携わるものとしては必要だと思っています。必ずしも全部と向き合えたとは思いませんが、ある程度はできたと思っています。

【記者】

初当選時の就任あいさつの中で、「市民の皆様と市長は家族だと、家族が笑顔で生活できるように頑張りたい」と、述べられていました。そういうことも踏まえてどのように16年間市政運営に当たられてきたのか改めて教えてください。

【福井市長】

わたしは、大家族で生活してきたので、組織の中でどのような役割を持って生活をするかというのは、一番小さな単位の家族という場で、勉強してきました。その経験を踏まえて、今言われたような、市民という、大きなスケールの課題を解決していくためには、やはり一人一人の市民の方と話をし、課題を見つけ、整理をしていくことが必要だと思っていたので、そういうことに心がけて行政運営を行ってきたつもりです。

【記者】

東村さんが市長になったことで、確実に前進できた、福井市が良くなった点を教えてください。

【福井市長】

中心市街地の問題や学校教育の在り方など、市長になった時に、取り組んでいきたいと申し上げた課題については、少なくとも一歩前進はさせていると思っています。

【記者】

今後どんな福井市になってほしいですか。

【福井市長】

やはり、市民等の皆さんが解決してほしい課題をいち早く察知して、それに果敢に挑戦をしていくことで、福井市がより、効果的効率的な行政運営のもと、前進をするということを期待しています。